

詩の国秋田 2009.8 vol.1

Akita—the Land of Poetry

*Thanks to the human heart by which we live,
Thanks to its tenderness, its joys, and fears,
To me the meanest flower that blows can give
Thoughts that do often lie too deep for tears.*

by William Wordsworth



「詩の国秋田」の 永続を！

国際教養大学理事長・学長

中嶋 嶺雄 (国際社会学者)

自然や風物に恵まれた秋田の地に、短詩型の文学・芸術として国際的にも評価の高い俳句・川柳・短歌を交流するネットワークが成立することの意義は、きわめて大きい。

現在、私は俳句を作らないが、父が俳人だったこともあって、松本市立清水中学校の生徒の頃は時々俳句を作っていた。中学校の校報や『窓』という生徒会誌には私の俳句がいくつか載っている。中学3年生の修学旅行で奈良へ行き、興福寺や猿沢池に感心したときに作った一句は、こうであった。

猿沢の灯の涼しさを宿にいて
嶺雄

間もなく高校生になり、正課としてフランス語を習い、桑原武夫著『第二芸

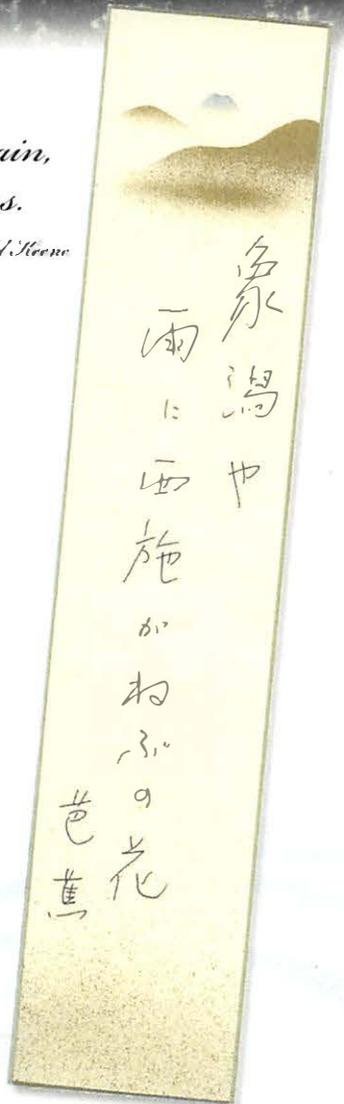
術論』に影響されたり、スタンダールの小説や『恋愛論』を夢中で読み始めた青年時代が、私を俳句から遠ざけたのであろうが、いま私は再び俳句が身近になりつつあるようなところにきているような気がする。

先日は、NHK 教育テレビで、同郷の俳人・宮坂静生先生（『岳』主宰）と俳句対談をさせていただいた。一昨年6月、台湾の李登輝元総統が「奥の細道」探訪の途次、国際教養大学で「日本の教育と台湾—私が歩んだ道」と題する特別講義をしていただいた際には、象潟の蚶満寺にご案内し、芭蕉の「象潟や雨に西施がねふの花」の句碑の前で、しばし俳句談義にふけたのであった。

「詩の国秋田」の発刊を祝い、その永続に期待したい。

*Kisakata—
Seishi sleeping in the rain,
Wet mimosa blossoms.*

Translated by Donald Keene

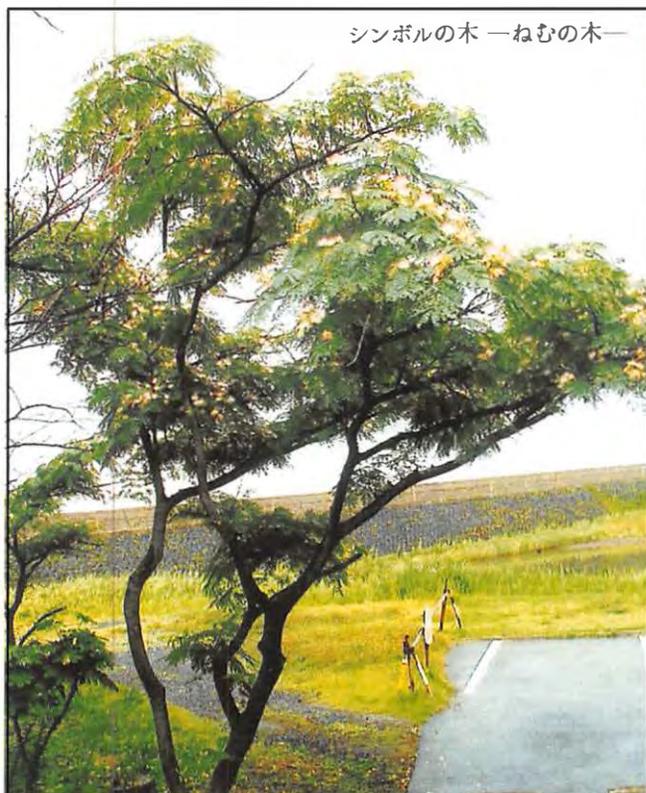


イベントのお知らせ

当ネットワーク主催のイベントを下記の通りに開催します。
皆様のご来場とご参加を期待しております。詳細は9月下旬にウェブサイトでご覧下さい。

期	日	10月11日(日)～12日(月)
会	場	A I U 祭(国際教養大学文化祭) A I U (国際教養大学)
共	催	1. 作品の展示 AIU HAIKU Contest の入賞作品 海外の短詩人の作品紹介 その他 2. クイズによる創作疑似体験 3. 参観者による選句体験 「交響雄和」実行委員会
期	日	10月17日(土)
会	場	あきた国際フェスティバル 2009
共	催	秋田拠点センター アルヴェ 財団法人 秋田県国際交流協会

シンボルの木 —ねむの木—



詩の国秋田 —2009.8 vol.1—

発行日 平成21年8月31日
Published on August 31, 2009
発行所 秋田国際俳句・川柳・短歌ネットワーク
Published by AKITA INTERNATIONAL HAIKU NETWORK
住所 〒010-1606
秋田県秋田市新屋寿町4-38
Address 4-38, KOTOBUKIMACHI, ARAYA, AKITA-SHI, AKITA,
010-1606 JAPAN
電話 018-824-2188
E-mail shhiruta@nifty.com
ホームページ <http://akitahaiku.wordpress.com/>

表紙書 中嶋嶺雄
Cover
Calligraphy NAKAJIMA Minco
写真(提供) 蛭田秀法
Photographs HIRUTA Hidenori
製作・印刷 秋田中央印刷株式会社